6 炭カル、テンロ石灰、珪カルの土壌改良効果について

1 背景と特徴

近年、苦土や珪酸など作物が必要とするミネラルを含んだ石灰資材が市販されているが、それらの草地土壌の酸性矯正効果について明らかでない点が多い。そこで炭カルと比較してそれらミネラルを含んだてんろ石灰、珪カルの土壌改良効果について検討した。

2 技術内容

- 1) 土壌の酸性矯正効果は炭カル>てんろ石灰>珪カルの順で炭カルの効果が最も大きい。
- 2) 珪カル、てんろ石灰の酸性矯正効果は緩慢であるのが特徴的である。
- 3) 中~弱性土壌では炭カルよりもてんろ石灰、珪カルの方が牧草の増収効果が大きい。またこれらには苦土や珪酸が含まれているので牧草中のそれら含量が高まる。
- 4) 5 カ年間の生草収量から検討すると、経済性からもてんろ石灰、珪カルは炭カルに劣らず、むしろマグネシウム、珪酸含量が高まる効果を考えると炭カルに勝る石灰資材といえよう。

3 指導上の留意点

珪カルは PH 矯正能力が少さく、強酸性土壌の改良にはなお検討を必要とする。

4 試験成績の概要

- 1) 試験課題名 牧草地の土壌改良に関する試験、牧草地の土壌改良の持続性に関する試験
- 2) 試験年次及び場所 昭47~49年、昭50~、 岩手畜試
- 3) 試験方法
 - (1) 供試改良資材 炭カル(アルカリ度 53%)、てんろ石灰(48%)、珪カル(40%)
 - (2) 昭 46 年秋まき、オーチャードメラジノクローバ混播草地(48 年クローバ消滅)
 - (3) 試験区の構成及び改良資材施用量(kg/10 a)

Ī	474.62	炭	カ	ル	て	んろ石	灰	珪	カ・	ル
	無改良区	少量区	中量区	多量区	小量区	中量区	多量区	少量区	中量区	多量区
	0	300	600	1200	350	700	1400	400	800	1600

4) 試験結果

苦土や珪酸などを含む石灰質資材であるてんろ石灰と珪カルの酸性矯正効果のおよそについて知り得た。

5) 主要成果の具体的データ

表-1 試験地土壌の化学的性質($0\sim10~cm$)

p	Н	置换	性塩基	□.e/1	00 8	塩基置 換容量	塩 基 飽和度	りん酸 吸収率
H ₂ O	KCl	ζa	Mg	К	Na·	及石區	%	数
5.81	4.81	6.61	0.46	0.17	0.11	85.9	20.5	2,180

表-2 土壌改良による生草収量指数の年次変化

利用	無施		炭カル		てんろ石灰			珪	ル				
年次	用	区	少量区	中量区	多量区	少量区	中量区	多量区	少量区	中量区	多量区		
4 7	10	0	94	92	88	111	101	88	96	114.	102		
4.8	100 100		100		102	99	101	107	111	102	108	119	107
4 9			103	107	106	109	107	112	110	117	110		
5 0			105	103	111	106	107	108	104	110	107		
5 1	10	0	106	113	115	107	110	118	109	120	120		

表一3 牧草のミネラル含量

D M 96

		素		C	a		Mg					
区別	年次		48年	49年	50年	51年	48年	49年	50年	51年		
無	改	良	0.56	0.34	0.42	0.40	0.31	0.24	0.24	0.23		
炭	カ	ル	0.61	0.36	0.46	0.46	0.31	0.24	0.22	0.20		
てん	, る 石	灰	0.61	0.36	0.44	0.47	0.35	0.25	0,25	0.23		
挂	カ	ル	0.57	0.36	0.49	0.45	0.34	0.26	0.27	0.26		

施用量は中量区

表一4 利用年次による置換性塩基の変せん

	FILETI AT SE	,	Ex-C	a me			$\mathbf{E}x - \mathbf{h}$	lg me		Нq
区名	利用年次	2 年目	3年目	4年目	5年目	2年目	3年目	4年目	5 年目	5 年目
無 施	用 区	4. 1 2	2 4 1	1. 7 1	1. 0 7	0.18	0.14	0.13	0.12	5.16
	少量区	714	4.82	561	303	018	0.18	018	017	5.70
炭カル	中量区	1500	1 29 5	1732	695	038	0.24	0.27	0.22	604
	多量区	2750	2304	21.43	1302	0.50	0.36	0.36	031	651
1 7	少量区	1054	7.05	600	303	042	0.18	:-021	017	5.57
てんろ	中量区	1429	964	832	7.94	0.69	0.52	0.26	032	600
石灰	多量区	21.25	1625	1 0.89	1382	1.02	0.53	0.29	0.49	657
	少量区	759	643	5.82	410	0.45	0.36	0.34	0.30	5.57
珪カル	中量区	12.14	884	832	517	0.69	0.57	0.49	0.41	5.83
	多量区	1357	1036	14.64	883	0.84	0.61	0.79	0.60	619

表一5 改良資材の含有成分及び価格

改良道	含有成分	}	有 効 石 灰 CaO %	可溶性珪酸 8102 %	く溶性苦土 MgO %	価 格 円/kg
炭	カッ	v	53			8.25
てん	る石り	Ę !	43 ~ 53	12 ~ 20	2 ~ 6	14.00
捷	カッ	ν <u> </u>	47 ~ 48	32 ~ 33	4	15.50

表一6 改良資材施用量と経済性

	改良資材	炭	カ	ル	τ	んろ	石灰	县	カ	ル	fac is- sca
項目	:	少	中	多	少	中	多	少	中	多	無施用
5 /年	生草収量kg/a	3,221	3,244	3,283	3,421	3,388	3,403	3,330	3,680	3,455	3,160
(A)価格	§(5円/kg)	16,105	16,220	16,415	17,105	16,940	17,015	16,650	18,400	17,275	15,800
施月]量 <i>kg</i> / a	30	60	120	35	70	140	40	80	160	0
(B) /	金額 (円)	247	495	990	490	980	1,960	620	1,240	2,480	0
- (A)	- (B)	15,858	15 , 725	15,425	16,615	15,960	15,055	16,030	17,160	14,795	15,800
無	施用対比	100	100	98	105	101	95	101	1 09	94	100

6) 残された問題点

5 参考資料

昭和51年度 試験概要成績書 岩手畜試